



Japan Association for Diabetes Education and Care

報道機関各位

1 型糖尿病のある子どもと家族に朗報 グルカゴン点鼻薬の学校での投与に関する要望が採用されました

2024年2月9日

公益社団法人日本糖尿病協会（所在地：東京都千代田区 理事長 清野裕（せい の ゆたか / 関西電力病院 総長）がかねてから厚生労働省に要望していた、学校や保育所での糖尿病のある子どもに対する教職員のグルカゴン点鼻薬使用について、このほど要望が認められました。1月25日に、こども家庭庁と文部科学省から全国の関係各所に事務連絡文書が発出されました。

■要望書の背景

1型糖尿病は膵β細胞の破壊によりインスリン欠乏状態となり、結果として高血糖となるタイプの糖尿病です。2型糖尿病と比較し小児期発症の割合が高く、発症時から生涯にわたりインスリン療法を行います。

インスリン投与量の調整は必ずしも容易ではなく、ときに低血糖を引き起こしてしまいます。小児1型糖尿病の低血糖の発症頻度は1000人あたり20回/年、そのうち意識障害を伴う重症低血糖の発症頻度は1000人あたり1回/年程度と1)、重症低血糖の発症頻度は高くはありませんが、重症低血糖は小児において永続的な認知機能障害をもたらす危険がある2)ことより、重症低血糖は可能な限り回避する必要があります。

意識障害を伴う重症低血糖への治療は、救急対応として家族等による注射用グルカゴン製剤の筋肉注射が認められていますが、非医療者にとって手技が煩雑で、また針刺し事故等の懸念があるため、実際に実施される頻度は多くありません3)。そのため、重症低血糖の小児は、搬送先の医療機関に到着するまでは加療を受けられない現状にあります。

2020年に承認されたグルカゴン点鼻粉末製剤（バクスミー®点鼻粉末製剤 3mg）は、使用方法が簡便で非医療者でも安全で扱いやすいデバイスです。従来の注射製剤と比較し、低血糖からの回復に関して同等の効果が期待できる4)だけでなく、簡便性、迅速性、実施成功率において優れていると報告されています5)。本製剤が、学校や保育所で使用できるようになれば、従来よりも重症低血糖へ速やかな対応が可能となり、糖尿病の子どもたちがより安全安心に家庭外での生活を送れることが期待できます。また糖尿病の子どもをもつ保護者にとっても、保護者が対応できない場所で重症低血糖を起こしてしまった際の不安を大きく軽減できます。

■要望実現のプロセス

日本糖尿病協会の要望プロセスは、以下のとおりです。

- ・ 2021 年 2 月 日糖協ペイシェントサポート委員会で「グルカゴン点鼻薬の使用範囲に関するワーキンググループ」を設定し、範囲、内容を検討
- ・ 6 月 「グルカゴン点鼻粉末製剤の学校や保育所での教員や職員の使用を求める要望書」を厚生労働省 大臣官房 厚生科学課に提出
- ・ 8 月 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課、厚生労働省 医政局医事課の担当官と、日糖協ペイシェントサポート委員会の委員長・委員で面談。グルカゴン点鼻薬の学校での使用場面等の情報交換を行う。学校職員向けのマニュアル案の制作を依頼される
- ・ 9 月 日糖協で制作したマニュアル案を文科省、厚生労働省に提出
- ・ 2022 年 6 月 厚生労働省医政局医事課より、学校での低血糖対応やグルカゴン点鼻薬の具体的な投与判断や手技に関する追加質問
日糖協ペイシェントサポート委員会で回答を作成し、提出

■要望が認められて

要望書を提出して、理事長の清野は以下のように述べました。

「日本糖尿病協会は、小児糖尿病サマーキャンプを 1967 年から主催するなど、小児 1 型糖尿病対策に古くから注力しています。今回の要望が受け入れられたことは、糖尿病のある子どもをもつご家族の不安を軽減するものであり、病気があっても他の子と変わらない生活を送る可能性を大きく広げるものとして喜ばしく思います。

今回は、厚生労働省と文部科学省のご理解を得て要望を認めていただきましたが、今後は、糖尿病のある高齢者を支援する専門介護者と、救急救命に携わる救急隊の使用についても継続して働きかけていく考えです。」

日本糖尿病協会は、糖尿病とともに生きる人々の QOL を高めるアドボカシー活動の一環として、今回の要望を行いました。当協会は、糖尿病のある人が安心して治療を継続できる環境づくりに、これからも注力して参ります。

<引用>

- 1) Y Yamamoto, et al. Status and trends in the use of insulin analogs, insulin delivery systems and their association with glycemic control: comparison of the two consecutive recent cohorts of Japanese children and adolescents with type 1 diabetes mellitus. J Pediatr Endocrinol Metab 32: 1-9, 2019.
- 2) M Bjørregaas, et al. Cognitive function in type 1 diabetic children with and without episodes of severe hypoglycaemia. Acta Paediatr 86: 148-153, 1997.
- 3) M Matsumoto, et al. The prescription rates of glucagon for hypoglycemia by pediatricians and physicians are low in Japan. Endocrine 64: 233-238, 2019.

PRESS RELEASE

- 4) Matsuhisa M et al. Nasal glucagon as a viable alternative for treating insulin-induced hypoglycaemia in Japanese patients with type 1 or type 2 diabetes: A phase 3 randomized crossover study. Diabetes Obes Metab 22: 1167-1175, 2020.
- 5) Toshihiko A et al. Usability of Nasal Glucagon Device: Partially Randomized Caregiver and Third-Party User Experience Trial with Simulated Administration at a Japanese Site. Diabetes Ther 11: 197-211, 2020.

<参考図>

バクスミー®点鼻粉末剤の使用手順



公益社団法人 日本糖尿病協会について

日本糖尿病協会は、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発と、糖尿病医療の発展に貢献することにより、国民の健康増進に寄与することを目的に、1961年（昭和36年）に結成されました。現在の会員数は、110,000人。糖尿病のある人とその家族、医師、看護師・栄養士・薬剤師などの医療スタッフおよび糖尿病に関心のある一般市民で構成されています。47都道府県糖尿病協会の下に約1,600の糖尿病「友の会」を置き、地域社会への糖尿病啓発活動を通じて、糖尿病があってもいきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。

(URL : www.nittokyo.or.jp / facebook : www.facebook.com/nittokyo)

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田
〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F
TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725
E-mail : hotta@nittokyo.or.jp